



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和5年 11 月 日
つばさだより 第 10 号

すべての「感覚」を総動員・「授業」はマルチタスクが満載の時間

各教室での行動観察の時間では私達特別支援教室の教員が子供たちの取組や教室の雰囲気等、様子を観察します。その中で改めて感じるのは45分間という時間の中で子供たちは本当に多くの作業に同時に取り組みながら学習しているということです。今日は日々取り組んでいる授業にどれだけ子供たちが「注力」することが必要か整理してみました。

まず、授業開始の時間になります。時刻を意識して教室に戻り、着席します。授業開始までに必要な学習道具をランドセルや机から選んで準備します。着席時は姿勢を保持し、お尻が椅子から落ちないように姿勢を調節します。教壇に先生がいることを確認し、周囲のざわめきや廊下から聞こえる音が気になる時もありますが、先生の声だけを聞き取れるようにノイズキャンセリングに意識を向け調節して話を聞きます。話の内容によっては集中時間が長く求められることもあります。学習に必要な作業準備（教科書を開く・ノートを出し、今日使うページを準備・机のスペースは限られるので物は落とさないように並べる・必要に応じてタブレット端末も準備等々）をします。先生が黒板に書いた内容をノートに書き写します。黒板に書かれた箇所を見失わないように目で追い、字形や文章を一瞬で覚え、ノートに写します。字はなるべく字形を整え、マスからはみ出さずにちょうどよい筆圧で書くことがベストなので、指先、手先への力加減も重要になります。作業中に次の指示がきたり、教科書の説明が始まったりすることもあるので常時、耳や目のアンテナを張っておかなくてはなりません。主要教科の国語と算数は基本的には毎日あるため、週5日、最低10時間はこうしたマルチタスクを実行し、継続する力が必要とされます。

日々何気なくやっている授業内のことでも必要な視覚、聴覚等の集中力、切り替え能力、姿勢保持のための筋肉緊張の力等の観点で整理すると、授業に参加するために必要な集中力は以上のようなものになると思います。よく子供たちからも「疲れた～」という声を耳にしますが、「そうだよねえ」という気持ちにもなります。しかし、こうした中で学校での日々の学習は進んでいきます。大事なことは、こうした中で自分のバランスを取りながら（必要以上にマイナスにならず、自分の良い部分にも意識を向けてうまくストレスを調節して、疲れを溜め込まずに）学校生活を送ること（必要に応じて支援を受けて）であると思います。また、大人としては、日々元気に子供たちが登校して授業に参加していることに対して、その背景に多くの子供たち自身の努力や忍耐があると「想像する」ことが大切なのかなと感じました。何気ない1日の終わりに、子供も大人もお互いに「今日もがんばったね!」と声をかけ合い、エールを送るような場面があってもよいほどの「激闘」を毎日過ごしているという感覚も大切にしていきたいと思う振り返りとなりました。